



第 253 回例会

日 時:平成 28 年 11 月 10 日 (木) 8:00～17:30

場 所:車中例会・野外研修 (小田原地区)

出席者:37 名 出席率 56%

(会員総数 68 名 欠席 29 名 休会 2 名)

1. 開 会 宮城例会委員長

11 月例会は野外研修の為、車中で開催する旨を告げ、配布資料を確認する。

2. 挨拶 岩島会長



皆さんお早うございます。
今日の天気は午前中晴れ、午後曇り、夜は雨との予報です。帰って来るまでは何とか大丈夫だと思います。

今日の小田原への野外研修は、二つの大きな意義がございます。

一つは、最近頻発しています自然災害は他人事ではなく、大正 12 年 9 月 1 日に起った関東大震災の震源地は小田原市とその周辺でありまして、小田原市がその経験を踏まえて開館した立派な「生命の星・地球博物館」を見学することは、大変意義のあることと思います。

二つ目は、北条氏政、氏照、氏邦の三兄弟の居城があった小田原市、八王子市、埼玉県寄居町が、この度、来年、市制 100 年を迎える八王子市が音頭を取って姉妹都市になりました。

この様な折に小田原城とその周辺を見学し、歴史や町を知ることは大変有意義なことと思います。この他にも、美味しい昼食や電力王・松永安左衛門記念館(茶室や庭園)の見学など楽しみがございます。

どうぞ今日一日、楽しく、有意義に、事故なく、小田原を満喫してください。

最後に、一つお願いがございます。それは先月例会で報告しました、Dr 肥沼信次のチャリティーイベントが 12 月 4 日 (日) に行われます。チラシを皆様にお配りしましたのでご覧ください。

ついては、入場券が 1 枚 2,000 円でして、私共のクラブは 30 枚引き受けることにいたしました。全部で 800 枚のところの 30 枚です。

後ほど、いちよう祭りの「通行手形」への協力と一緒にお願いにまいりますので、よろしくご協力願います。

以上をもちまして、挨拶と致します。

3. 幹事報告 飯田幹事

今日は車中例会・野外研修への参加ご苦勞様です。楽しくけがの無いように研修いたしましょう。後ほどチャリティーイベント「お帰りなさい! Dr. 肥沼」のチケットをよろしくお願い致します。

4. 委員会活動報告

(1) 例会委員会 宮城委員長

第 253 回例会の出席状況の報告 (前記の通り)

(2) 情報委員会 有泉委員長

「プロバスだより」252 号をお手元にお届けしました。苦勞の傑作をご覧ください。

例会での報告等の発言原稿を頂き編集者は大変助かっています。引き続きよろしくお願い致します。

(3) 会員委員会 土井俊雄委員長

報告事項なし。

(4) 研修委員会 池田委員長

野外研修報告

「生命の星・地球博物館と小田原界限周遊」

秋恒例の野外研修、今年は圏央道の開通で近くな



った小田原です。

○生命の星・地球博物館

館員のガイダンスで館内展示のあらましを知り、それぞれに好みのコーナーに向かいます。1階【地球の成り立ちと生命の発展】珍しい鉄隕石、

巨大な岩石など地球 46 億年の歴史資料に手を触れながら、広い展示室をめぐる。始祖鳥、恐竜の骨格標本から現代の動物まで豊富な剥製群が並んでいます。絶滅したと言われるニホンオオカミのそれもありました。



珍しい鉄隕石に手を触れて

エレベーターで一気に 3 階まで。3 階の回廊から今見てきた 1 階の展示室を一望、その壮観には目を奪われます。

【神奈川の自然】【自然との共生】

地球の現状と未来への展望を展示。健やかな地球環境を維持するために、私たちは今厳しい選択を迫られています。そのひとつひとつを再確認して今後の課題としたいものです。

【ジャンボブック】

見開きの大きな本に見立てた印象深い資料展示です。蝶や貝など神奈川に生息する動植物の貴重なコレクションがありました。2 階には豊富な関連図書を備えた図書室もあります。

地元の小・中学生は年中行事として毎年来館するとのこと。大人の我々から見ても興味深く豊かな資料を持つ、この恵まれた教育環境からよき自然科学者が誕生することを期待しましょう。

○小田原城

新装なった天守閣から見渡す相模湾、箱根の山々



格別です。

かつての武將たちはどんな思いでここに立っていたのでしょうか。

○小田原文学館

姉妹都市提携の記念で八王子市民は無料で見

学できるとのこと。北村透谷、尾崎一雄など小田原ゆかりの文学者の資料や記念碑、北原白秋童謡館があり、広い庭園は市民の憩いの場になっています。

○松永記念館

本館展示室には、電力王と言われた松永安左衛門の書やゆかりの品があります。のびのびと雄渾な筆致にその人柄が表れているようです。

次いで山の中腹にある松永の住居と茶室「老櫓荘」を拝見。それぞれに趣のある茶室がいくつか、庭の作りと共に形式にとらわれない松永耳庵らしい佇まいでした。現在は小田原市の管理で一般市民が利用できます。阿部治子会員も近日この茶室で社中の茶会を開かれるそうです。

お城だけではなく小田原の魅力をご紹介しましたが、限られた時間での見学で見残した所も多いかと思えます。また改めてお出かけの上ゆっくりとご覧ください。



恐竜の骨格標本を背に

○出前講座のアンケートのまとめをしています。年内には仕上げて来年 1 月にはご報告したいと思います。

(5) 地域奉仕委員会 持田委員長

先月 10 月にすでに報告いたしました通り生涯学習

サロンの開講式・閉講式・野外サロンを含めすべてのカリキュラムと日程が決まりました。皆さまのご協力を頂き本当にありがとうございました。

今月 3 日の理事会でサロンのカリキュラムや予算案などについてすべて承認を得ました。参加人数は昨年とほぼ同数で見込んでおりますので、予算についても昨年とほぼ同金額で立てました。サロンでは外部講師が 3 名になっておりますが、全体の予算増にはなっておりません。

現在は話し手の皆さまから講座の概要を短くまとめて頂き、それを印刷するべく準備を始めているところです。ほとんどの校正を終えて、今月中旬には印刷に手配する予定をしております。

今月の予定は市への申請書や広報のために新聞社への依頼が始まります。

また、名簿や住所録などの整理も始めるべく昨年のデータを参考にまとめておく予定です。今後印刷関係の仕事が増えてくるので、岡田印刷さんの代わりの印刷業務をどう進めるかも今月の課題です。

各委員会へのお願い事項も今後出てまいりますので、12月の例会時にお伝えいたします。

いよいよサロンの計画が実施段階に入ります。委員会全員で取り組んでいきますので、皆さまのご協力をよろしくお願い致します。

(6) 交流担当 報告事項なし。

(7) 八王子「宇宙の学校」 下山P Jリーダー

5～6日に北高校、工科大の第4回スクーリング及び閉校式を終えました。13日に教育センターでの第4回スクーリングと閉校式をもって、今年度の「宇宙の学校」は終えることとなります。

皆様の積極的かつ真剣なサポートに感謝します。有難うございました。次年度に向けまた準備が始まりますが、宜しくご協力ください。

「宇宙の学校」報告 情報委員会 有泉裕子

第4日目の「宇宙の学校」は11月5日(土)八王子北高校会場(26組参加)、6日(日)東京工科大学会場(79組参加)、13日(日)本部会場(62組参加)で開催されました。各会場ともこども・宇宙・未来の会(KU-MA)の山下法昭先生によりスライドによ

る「静電気について」のガイダンスがあり、テーマ「静電気で遊ぼう」の実験と体験に子供達は大喜びしていました。

家庭学習の成果発表会では子供達は一生懸命に発表していました。貴重な体験になったことと思います。その後、閉校式が行われ、教育長のご挨拶、修了証書の授与があり、最後に杉山後援会長のご挨拶で今年度の日程の全てを終了しました。



静電気の実験



家庭学習発表会

(8) その他 佐々木研吾会員

いちょう祭りのC会場にお手伝い頂く方に資料をお渡し致しました。当日よろしくお願い致します。お手伝い以外の方も是非お出かけください。市制100周年にあたりいろいろなイベントも催しています。

5. 同好会活動報告

報告事項なし。

6. プロバス賛歌斉唱

車中例会の為省略。

7. 閉会 武田副会長

本日は車中例会、朝早くからのご出席お疲れ様です。このため、通常例会より出席率は 56% と落ちましたね。



さて、例会が終わり、これから、野外研修に切り替わります。

研修委員会にバトンタッチいたします。小田原に関する歴史、ご説明いただく佐々木さん、宮崎さん、宜しくお願い致します。歴史的にも北条氏照と繋がりのある小田原です。

これから各施設の見学を、楽しみにしたいと思います。移動には、お足元充分にご注意ください。



《話題の八代目芝翫、そして玉三郎》

杉山 友一



久方ぶりでこの秋、歌舞伎座の芸術祭十月大歌舞伎を観劇した。その日は、橋之助改め八代目中村芝翫襲名の披露口上が組み込まれていて、いやが上にも劇場の雰囲気は盛り上がっていた。

時あたかも、京都の舞妓はんを巻き込んだ八代目のゴシップが週刊誌を賑わし話題沸騰中ということもあって人気の高騰ぶりは申し分なしだ。当日夜の部の出物は、まずは曾我狂言お馴染みの人物が勢ぞろいする華やかな一幕「外郎売」があつて後、20分間の披露口上には八代目の長男の四代目橋之助、次男の三代目福之助、三男の四代目歌之助の襲名披露も重なり、成駒屋一門の春を思わせる慶事の趣が劇場一杯に華やいでいた。口上に続いていよいよ本日の柱となる演目は、八代目中村芝翫が演じる義経の従者熊谷直実の一代記、源平一ノ谷軍記の「熊谷陣屋」だ。話は、故あつて敵将平敦盛の命を助けよとの義経の命を受けた直実が、自らの一子小次郎の首を代りに差し出すという、戦いの世の無常さと人生のはかなさを主題とする演目だが、鍛え上げられ

た役者の力量、第一級品の舞台の力、支える最上級の音曲陣等々、全てが渾然一体となって、歌舞伎の情緒を形式美の極限世界に盛り上げていく。気がつけば瞬間の1時間30分、その感性を共有できる日本人で良かったとの思いがこみ上げて来た。

それにしても、これほどの役者さんでも、昔なら粋な艶や話は芸の肥やしとさりとかわした番外でのゴシップも、今様の世間の正義感絶対許さないとする。些か息が詰まる気がしてならないのは老生だけだろうか。

歌舞伎の歴史は17世紀の初頭（慶長年代初期）、出雲の阿国の「かぶき踊り」から始まり、女歌舞伎～若衆歌舞伎～野郎歌舞伎の時を経て、元禄年間（1688～1704）に江戸と上方で大きく発展したとされる。そして、この時期を基礎として世紀を重ねて、やがて歌舞伎の近代化が果たされ今日の盛りを迎えていると理解している。世界に冠たる舞台芸術歌舞伎は、これからも日本文化の誇りの塔として聳えて行くに違いない。さて、十月大歌舞伎、最後の出物は、華やかで変化に富んだ優美な世界を表現する、玉三郎が演じる舞踏的一幕だ。所要時間30分ほどの間には次々と艶やかな衣装替えの早技を見せながら、塗り笠をかぶり藤の枝を手に藤の精となった可憐な娘を、続いて藤音頭にのせてゆったりと艶やかな娘のほろ酔い姿を、終盤には可憐さと郭の女性の色気を織り交ぜての演舞で、遂にクライマックスに到る、華麗、妖艶、有終完美、これぞさすがに人間国宝玉三郎の演技の力、人間力の成せる技とただただ感嘆あるのみであった。ときに、私は以前に、西洋の伝統的オペラの対岸に日本の重要無形文化財でもある歌舞伎があるとプロバスだよりに記したことがあるが、西洋の舞台舞踏は、西ヨーロッパで発生し、やがてオペラの一部として発展を遂げてきた経緯がある。現代では私たちにお馴染みなバレエ組曲として、「くるみ割り人形」や「白鳥の湖」、或いは「眠れる森の美女」などの舞台舞踏が良く知られている。あえて比較をする必要はないのだが、稀代の女形玉三郎の演舞は、日本人としてのDNAを共有するからこそ深く心に沁みてくるものがあるように思えてならない。和食と洋食とどちらが好きかと問われれば、至極当たり前な話だが、やはり日本人には和食が良く似合うということなのかもしれない。

《積年の余慶》

一瀬 明



1981年（昭和56年）当時私は宮崎県日向市のフェロニッケルという金属の製錬所の生産課長として現場のマネジメントの任に当たっていた。ある日驚きのニュースが飛び込んできたこと

を今でも鮮明に覚えている。隣の鹿児島県菱刈の当社（住友金属鉱山）の保有する鉱山で極めて高品位の金鉱脈が確認され4年後には採掘を開始するという社内ニュースであり、同時に外部に対しても正式に公表された。有望な金鉱山であり何本もボーリングして探鉱していることは知らされていたが正式な発表はこれが初めてである。何せ探鉱というのは「1000、3つ」の世界であり1000本ボーリングして3本当たれば御の字と言われているのに対して、10数本すべてに当たりがあり、それも我々の常識より一ケタ高い濃度の金を含有しているというから驚きであった。職場は違うとはいえ現場で苦労しているものにとってはうれしくもあり浮かれる感情がわいてきたのは正直なところであったが、その時に当時の経営トップからの通達の中にあっただのが「積年の余慶」という言葉であった。もともとの意味は善いことを積み重ねた家ではその恩恵が子孫にもおよぶということで、中国古典「易経」に由来するということは後から知ったが、要するに過度に浮かれることなく400年の歴史を謙虚にありがたく受け止めよ、というトップの戒めの表明であったと思う。宇宙科学の教えるところによれば鉄（原子番号56）より重い元素（金は原子番号79）は地球創成46億年よりはるか昔の宇宙創成138億年以來の星の衝突爆発現象に由来する文字通り天からの恵みである。この思想は、いかに金価格が高騰しようともヤマのライフを少しでも先延ばしして、天の恵みを後世に残すべく金生産量を7t/年に抑えるという経営方針に具現化され現在に至っている。金価格が高騰すると増産したい誘惑にかられるが後輩の経営陣もこれを守り通している。欧米の鉱山会社ではまず考えられないことで、彼らは自分の代での短期的な利益しか念頭にないから掘れるだけ掘って高い報酬を手

にして鉱石がなくなればそれで終わりとするのが普通の経営行動である。金を通して彼我の経営思想の違いを垣間見るとともに経営の一線を引いた今でも「積年の余慶」の持つ意味の重さを時にあたって反芻している次第である。



菱刈金鉱石と1kg金インゴット



菱刈鉱山高品位金鉱脈の前にて筆者（右端）



菱刈鉱山全景

〈庭いじりにそろえたい道具と使い方〉

荻島 靖久



庭木の手入れをはじめる前に、鋏類をはじめ、移植に使う用具類を揃えておきたいものです。

植木は鋏一本あればと思っている人もいますが、枝の太さや形を見極めて道具

類を使い分けます。

植木ばさみ=最も一般的なはさみで葉や小枝の剪定に、やや太い枝は刃の元の方で切る道具です。

剪定ばさみ=柄の内側にバネが組み込まれバネ力を利用して枝を切ります。植木ばさみで切れない枝に適しています。使い方は、太い枝は刃先で枝をはさみ握りながら回して、なお斜めに切るとラクです。1メートル以上の植木である場合、枝の切り口が目立つので、目線より上の枝は切り口を上、目線より下の枝は切り口を下になるよう剪定します。切り口が目に入ると植木がきれいに見えない。剪定する時は、まず枯れ枝から切る。枯れ枝をきるだけでほとんど形がすっきりととのってしまいます。

刈り込みばさみ=玉物や生け垣などしたてものの刈り込みに使います。柄が伸縮するタイプは高いところの刈り込みに便利ですが、できれば伸縮するタイプより刃と柄の角度が小さく柄の部分の長いものが良い。柄が長い方が加える力が少なくすむ。刈り込みはさみは片手を動かす。両手を動かしてしまうと上手く刈れません。刃の一方は刈り込み面にあてて、もう一方の刃だけを動かして刈るのがポイントです。

のこぎり=太枝を切る時に使う。刃渡り 30センチくらいで刃先が丸く目の粗いものが良い。刃幅が狭く片手で使えるし狭い庭向きである。枝おろしするときは、一度に無理に落とさない。鋸が枝元に挟まれて取れなくなるので二度に分けておこなうこと。枝を一度に落とすと枝の重みで幹まで裂けてしまうことがある。枝元から 10cm くらいのところを鋸で、下から切り込みを入れておくこと。

植木も人間と同じ、剪定や枝切りしたなら、1cm 以上の切り口があれば手当を忘れずに。切り口が大きいと病原菌が入り込んで腐ってしまう。

俳句同好会便り

私の一句～11月の句会から

河合 和郎

早や 12 月。季節の移ろいを追いかける俳句の世界。四季の巡りはめまぐるしく過ぎ去ってゆく。せめて、作品にはしっかりと足跡を残したいもの。

駅弁に栗の二つや夜汽車行く 立川富美代

「栗飯弁当」に惹かれて買い込み、さて夕食。弁当には栗が二つしか入っていなかった。残念至極。

野や山は不作なりしや熊の影 馬場 征彦

各地で熊が人里に現れ、被害も出ている。山の生り物の不作が原因とか。冬眠を前に熊も命がけ。

散り落葉たき火の歌碑に寄り添ひて 渋谷 文雄

童謡「たき火」の歌碑が日野市にある。童謡の世界と現実の光景を詩情豊かに詠んで佳句。

富士川に富士の影濃し秋闌ける 山形 忠顯

秋の深まりとともに富士の引く影も深くなってゆく。川面に映る富士の影に季節の移ろいを見る。

柿落葉終日散りて掃きあぐね 東山 榮

掃いた後から落ちて来る枯葉。「もううんざり」と作者。と言いながら一句に仕立てるしたたかさ。

畑作の被害聴きつつ猪の鍋 矢島 一雄

市内でも猪の食害が多発している。その上を行くのが人間。犯人を鍋にして食ってしまうのだから。

ひとつかみほどの落葉の焚火かな 池田ときえ

繊細な感覚の一句。昨今は焚火も許されないが、一握りの落葉で焚火を。その薄煙に思い出を追う。

草千里冬霧に消ゆ噴火跡 田中 信昭

大自然の猛威。あの草千里が降灰で埋まってしまった。冬霧が無残な姿をやさしく隠してくれている。

夜神楽や神と村人酒交はす 飯田富美子

宮崎の日向や高千穂神楽が名高い。神楽の後の酒盛り。神と村人が交流する酒盛りは夜を徹して。

欲捨てて身軽になりし冬支度 河合 和郎

こうありたいと願う心。現実には物欲も心の欲も捨てきれない。来年こそ身も心も軽くして……。

編集後記：本紙の編集を初めて担当させていただきました。皆様の全面的なご協力により、全ての記事を期限内にご提供いただき大変助かりました。心から御礼申し上げます。

情報委員会 有田 進治